

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

科目名	環境保健学		科目ナンバリング	K01F23005	
担当者氏名	長尾 憲樹				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 <input type="radio"/> 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 <input type="radio"/> 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 <input checked="" type="radio"/> 4-2 安全なケア環境を提供する能力 <input type="radio"/> 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

我々は、かけがいのない太陽系第三惑星に生存しています。ジェームズ・ラブロックが提案したガイア仮説をご存じでしょうか。端的にいえば、地球そのものが生命体である仮説であります。産業革命以来、地球上に人口爆発が生じてきました。人間の行為と環境の関わりを真剣に考えます。

《テキスト》

特になし。

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編

《授業の到達目標》

環境と人間の関わりを理解し、これからの生活に生かせる努力を始める。

《授業時間外学習》

環境問題に関して、新聞を読み、TV等のニュースを視聴する。

《成績評価の方法》

定期試験70%
レポート30%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境保健の始めに	人から宇宙へいたる旅を観る。
2	放射線	放射能、放射線の基礎的知識を理解する。
3	大気・空気Ⅰ	喫煙について、再度考えてみる。
4	大気・空気Ⅱ	アスベスト、PM2.5が問題になっている。
5	化学物質	レイチェルカーソンとテオ・ホルボーンを知っていますか。
6	水	生命を育む水環境の大切さを学ぶ。
7	天災について	危機管理における役割を考える。
8	防災・減災	未だ、だれも試みたことのない道を目指して話します。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	看護倫理	科目ナンバリング	K04B14029
担当者氏名	石田 宜子		
授業方法	講義	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力		

《授業の概要》

看護は、人の生き死に、生き方、生活に関わる活動であり、活動を通して看護を受ける者と相互に影響し合うため、倫理性なくしては成り立たないと言われています。また、人の価値観が多様化し、医療をはじめ社会状況が複雑化する中、何が倫理的実践なのかの判断は難しくなっています。この授業では、看護倫理の基礎を学び、倫理的問題に対する解決方法の道筋を学んでいきます。

《授業の到達目標》

1. 看護における倫理の意義、重要性を説明できる。
2. 看護倫理の原則について説明できる。
3. 看護者の倫理綱領について説明できる。
4. 看護倫理の主要な概念を説明できる。
5. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。
6. グループワークにおいて倫理的観点から討論できる。

《成績評価の方法》

成績評価は、筆記試験：40%、レポート：30%、グループワークの参加度およびレポート：30%で行う。
 授業終了ごとに理解しづらい内容や質問を全員から用紙で受け取り、次回授業でコメントする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護倫理の基礎（1）	医療における倫理の歴史、専門職と倫理、看護倫理とは
2	看護倫理の基礎（2）	看護倫理の原則、ケアリング、看護者の倫理綱領
3	倫理的意思決定プロセス	倫理的問題とは、倫理的意思決定プロセス
4	看護の場における倫理的問題①	事例に基づいたグループワーク①
5	看護の場における倫理的問題②	グループワーク成果の発表と討議
6	看護の場における倫理的問題③	事例に基づいたグループワーク②
7	看護の場における倫理的問題④	グループワーク成果の発表と討議
8	まとめ	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《テキスト》

系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院

《参考図書》

●S.T.フライ、他著・片田範子他訳「看護実践の倫理」第3版、日本看護協会出版会、2010 ●小西恵美子編「看護倫理」第2版、南江堂、2014 ●杉谷藤子、他「『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例30」、日本看護協会出版会、2007 ●吉田みつ子「看護倫理 見ているものが違うから起こること」、医学書院、2013

《授業時間外学習》

- ・授業までに、教科書の関連する箇所を読んでおく
- ・ワーク課題については、参考図書をはじめ文献を広く読むこと

《備考》

授業日程は、別途掲示します。

科目名	成人看護援助論 I（生命危機状態にある人）		科目ナンバリング	K05C13032
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子、大植 崇、塩 霧都恵、大塚 千秋、和田 知世、廣田 真里			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力			

《授業の概要》

急性期は急激な健康状態の変化が起こり、身体的侵襲や心理的動揺が大きい時期である。急性期にある成人期の患者、家族の特徴と課題を中心に、看護の役割を学ぶ。また生命の危機的状況にある患者と家族を理解するための理論を学んでいく。さらに周手術期各期の患者の身体的、心理的、社会的影響や外科看護の特徴について理解し、回復過程への援助を学ぶ。

《授業の到達目標》

- (1) 急性期状態にある患者、家族の特徴と看護がわかる。
- (2) 周手術期各期の特徴と必要な看護援助が説明できる。
- (3) 高侵襲な治療を受ける患者の看護が理解できる。
- (4) 周手術期患者の看護過程の展開ができる。
- (5) 周手術期患者に必要な援助と看護技術が実践できる。

《成績評価の方法》

試験50%、演習レポート・成果物40%、課題（小テスト含）10%とする。
 *レポートはコメントを付して返却する。

《テキスト》

- (1) 臨床外科看護総論 矢永勝彦他編、医学書院
- (2) 「成人看護学2.3.5.7.8.9.10」医学書院
- (3) 実践看護アセスメント 渡辺トシ子編 スーベルヒロカワ

《参考図書》

- (1) 「写真でみる整形外科看護」 山元恵子インターメディカ
- (2) 疾患別看護過程 医学書院
- (3) 症状別看護過程 医学書院
- (4) 看護診断ハンドブック 医学書院
- (5) クリティカルケア看護学 医学書院
- (6) リハビリテーション看護 医学書院

《授業時間外学習》

授業の予習、復習をすること
 看護過程の演習では、次回までの課題は必ずしてこること

《備考》

成人看護援助論 I では、基本的に講義はA、B合同、演習はA、Bクラスに分かれて行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	急性期看護の特徴 外科患者の病態の基礎	急性期の概念と特徴を理解し、急性状態にある患者と家族の看護の特徴、手術を受ける患者の身体侵襲や生体反応などの病態について学ぶ。
2	手術期看護：手術前・手術中・手術直後・手術後	術前患者のリスクアセスメント、術前処置の目的、手術、麻酔の侵襲と手術室看護師の役割、術後合併症の予防、侵襲からの回復促進に向けた観察、アセスメントができる。
3	救急看護の基礎 救急看護の実際	緊急時の救急処置の対象、原則を理解し、救急看護の実際を演習で行う。急激に健康破綻をきたした患者のアセスメントができ、救急看護の役割が実施できる。
4	消化、排泄機能に障害のある患者の看護	開腹術、腹腔鏡下切除術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
5	性、生殖機能に障害のある患者の看護	性・生殖器切除術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
6	循環、呼吸機能に障害のある患者の看護	開胸術、胸腔鏡下切除術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
7	脳、運動器機能に障害のある患者の看護	開頭術、人工関節置換術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法が説明できる。
8	看護過程の展開：演習	ゴードンの考え方による概念枠組み、機能的健康パターンを用いた看護過程の展開方法を学ぶ。患者の事例を設定し、看護過程のプロセスを学習する。
9	看護過程の展開：演習	患者の事例を設定し、看護過程のプロセスを学習する。
10	看護過程の展開：演習	患者の事例を設定し、看護過程のプロセスを学習する。
11	看護過程の展開：演習	患者の事例を設定し、看護過程のプロセスを学習する。
12	看護過程の展開：演習	患者の事例を設定し、看護過程のプロセスを学習する。
13	看護過程の展開：演習	患者の事例を設定し、看護過程のプロセスを学習する。 看護計画と援助内容の発表会
14	周手術期看護：事例技術演習	術直後、術後1日目の事例患者の状態を観察、アセスメントすることができる。
15	周手術期看護：事例技術演習	術後1日目の事例患者の早期離床にむけた援助ができる。

科目名	成人看護援助論Ⅱ (常態の維持・増進が困難な人)	科目ナンバリング	K05C13033
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子、大植 崇、塩 霧都恵、大塚 千秋、和田 知世、廣田 真里		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

慢性的な健康問題をもつ人々を理解するための基礎的な概念や理論を学習し、対象がセルフケア能力を高め、病気と折り合いをつけながら、その人らしい生活が営めるような看護援助の考え方と方法を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 慢性的な健康障害をもつ人・家族の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。
2. 慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護援助を具体的に述べるができる。
3. 様々な問題を有する慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護を立案できる。

《成績評価の方法》

総合的に評価します。
 グループワークへの参加10% 課題レポート30%、試験60%
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

- 1) 成人看護学 慢性期看護論 ノーヴェルヒロカワ
- 2) がん看護学 医学書院
- 3) 緩和ケア [第2版] 医学書院

《参考図書》

- 1) 「病気がみえる」シリーズ:メディックメディア
- 2) 「なぜ? どうして?」シリーズ:メディックメディア
- 3) 疾患別看護過程 : 医学書院
- 4) 症状別看護過程 : 医学書院
- 5) 看護診断ハンドブック: 医学書院

《授業時間外学習》

成人看護学では、解剖学、生理学、病態学、治療学、看護援助論等の知識が必須です。これらの知識は既習していることを前提に授業は進みます。自己学習がとても重要です。

《備考》

◎講義はA・B合同で行う。演習はA・Bに分かれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	慢性期看護の考え方	糖尿病患者看護事例: ①慢性期とは、②慢性疾患・治療の特徴、③生活習慣病の予防と、④慢性的な健康問題をもつ人の治療・療養環境について理解することができる。
2	慢性的な健康問題をもつ人の特徴と理解	糖尿病患者看護事例: ①セルフケア能力を高めるための教育的支援と看護援助、②慢性的な健康問題を持つ人の家族への支援を理解することができる。
3	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	呼吸不全患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
4	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	急性骨髄性白血病患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
5	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	慢性腎不全の血液透析患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
6	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	脳梗塞患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
7	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	肝硬変患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
8	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	慢性心不全患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
9	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がん医療の特徴と緩和ケアの概念: わが国におけるがん対策の歩み、がんの予防、緩和ケアの概念について理解する事ができる。
10	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんの主な治療と看護: 放射線療法、化学療法を受ける患者への支援の実際を理解することができる。
11	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんとともに生きる人・家族の理解: がんの受け止め方、死に行く患者の心理プロセス(危機理論)、トータルペインを理解し、援助の実際について理解することができる。
12	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんとともに生きる人・家族の理解: トータルペイン(身体的・精神的・社会的)について理解し、援助の実際について理解することができる。
13	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんとともに生きる人・家族の理解: トータルペイン(身体的・精神的・社会的)について理解し、援助の実際について理解することができる。
14	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	終末期の症状緩和と看取りのケア: 終末期に起こる症状とケア、補完代替療法、エンゼルケア、医療者のグリーフケアについて理解することができる。
15	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	グループワークでがんとともに生きる人・家族の個別性を踏まえた看護援助を立案し、ロールプレイングを通して患者家族の思いに沿った援助を理解することができる。

科目名	成人看護学実習 I		科目ナンバリング	K05B13034
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子、大植 崇、塩 霧都恵、大塚 千秋、和田 知世、廣田 真里			
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

病院施設の急性期病棟において、健康の突然の破綻や手術の侵襲的な治療を体験する成人期の対象や家族の身体、心理、社会的特徴を理解する。急激な健康障害を持つ対象者の健康上の問題をアセスメントし、回復に向けた支援方法を看護過程の展開をとおして学ぶ。

《テキスト》

成人看護学総論、臨床外科看護総論 医学書院

《参考図書》

- ・「消化器疾患ビジュアルブック」「消化器疾患ビジュアルブック」「消化器疾患ビジュアルブック」「消化器疾患ビジュアルブック」 学研
- ・写真でわかる臨床看護技術①② インターメディカ
- ・症状別看護過程 疾患別看護過程 医学書院

《授業の到達目標》

1) 急激な健康の破綻や健康障害による患者の特徴や生活への影響因子を総合的に理解し、患者及び家族に対する援助ができる。2) 急性期から回復期にある患者の病態や治療による身体的影響を理解し、必要な援助ができる。3) 急性期から回復期にある患者の状態に応じた看護過程が展開できる。4) 急性期から回復期にある患者との関係性の中で自己の課題を明確にする。

《授業時間外学習》

講義内容や演習について復習をする。解剖生理や疾患の病態生理を十分押さえておく。

《成績評価の方法》

成人看護学実習 I の評価表に基づいて評価する。(100%)
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

実習前に成人看護学実習の要項を熟読しておくこと。授業内容や事前学習を十分活かすこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
2	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
3	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
4	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
5	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
6	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
7	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
8	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
9	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
10	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
11	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
12	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
13	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
14	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照
15	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習 I の実習要項を参照

科目名	成人看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	K05B13035
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子、大植 崇、塩 霧都恵、大塚 千秋、和田 知世、廣田 真里			
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力 			

《授業の概要》

病院施設における慢性期病棟において、慢性的な健康問題を持った対象者や家族を理解し、健康の保持増進と健康障害の予防にむけた支援の実際を看護過程の展開をとおして学ぶ。

《テキスト》

- 1) 成人看護学 慢性期看護論 スーヴェルヒロカワ
- 2) がん看護学 医学書院
- 3) 緩和ケア [第2版] 医学書院

《参考図書》

- 1) 「糖尿病・代謝・栄養疾患ビジュアルブック」「呼吸器疾患ビジュアルブック」「腎・泌尿器疾患ビジュアルブック」「循環器ビジュアルブック」「脳神経疾患ビジュアルブック」学研
- 2) 疾患別看護過程 : 医学書院
- 3) 症状別看護過程 : 医学書院

《授業の到達目標》

1) 慢性的な健康問題のある患者の特徴を総合的に理解し、患者及び家族に必要な支援ができる。2) 患者の病態ならびに病気のステージを理解し、必要な援助ができる。3) 慢性的な健康問題のある患者の状態に応じた看護過程が展開できる。4) 慢性期から回復期にある患者との関係性の中で自己の課題を明確にする。5) 患者及び家族を取り巻く他職種とのメンバーと協同し、相互の関係性が理解できる。

《授業時間外学習》

講義内容や演習について復習をする。
解剖生理、疾患の病態生理を復習し事前学習として備える。

《成績評価の方法》

成人看護学実習Ⅱの評価表（100％）に基づいて評価する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

実数前に成人実習要項を熟読しておくこと。
授業内容や資料、事前学習を十分実習に活かすこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
2	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
3	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
4	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
5	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
6	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
7	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
8	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
9	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
10	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
11	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
12	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
13	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
14	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
15	臨地実習	詳細内容や実習方法は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照

科目名	老年看護援助論		科目ナンバリング	K05B13037	
担当者氏名	小野 晴子、西原 かおり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療・看護過程について教授する。加齢に伴う身体的・精神的に起こりうる様々な加齢現象を理解し、そのことが生活機能に及ぼす影響、また必要な援助方法について教授する。事例による看護過程の展開を行う。

《テキスト》

「系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」「看護診断ハンドブック」医学書院

《参考図書》

「老年看護学」概論と看護の実践、「生活機能からみた老年看護過程」医学書院、「看護過程に沿って対症看護」学研、「疾患別/看護ケアのための病態関連図」医学芸術社

《授業の到達目標》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程に伴う看護を理解できる。また、疾患及び加齢現象から生じる症状が生活機能に及ぼす影響について理解でき、必要な援助方法について考えることができる。

《授業時間外学習》

演習はグループで積極的に進める。
技術演習前にDVD視聴：口腔ケア、排泄援助、おむつの体験

《成績評価の方法》

レポート：20%
小テスト：20%
筆記試験：60%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

技術演習前は、eラーニング学習システムを利用して積極的に予習をすること。
1週2コマの授業形態(一部変更)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 1)	ガイダンス 認知症患者の看護
2	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 2)	認知症患者の看護
3	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 3)	精神・神経疾患、うつ状態、せん妄患者の看護 脳血管障害、パーキンソン病、
4	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 4)	呼吸機能の変調及び閉塞性肺疾患、感染症患者の看護 循環機能の変調及び心不全、
5	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 5)	運動機能の変調及び骨折(大腿骨頸部など)転倒・転落予防、患者の看護 【演習】骨密度、体組成測定、筋力保持エクササイズ
6	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 6)	感覚機能の変調及び白内障、難聴、老人性掻痒症患者の看護、
7	高齢者に特有な症候・疾患・障害の看護 7)	感染症患者の看護：口腔ケア、インフルエンザ、O-157
8	高齢者の生活を支える技術 1)	【演習】食生活の援助：摂食・嚥下機能のアセスメント、誤嚥性肺炎の予防
9	高齢者の生活を支える技術 2)	【演習】清潔の援助：入浴(機械浴)、手浴、足浴
10	高齢者の生活を支える技術 3)	【演習】排泄の援助：、便秘(下痢)おむつ交換、移乗(ポータブルトイレ・トイレ)
11	事例による看護過程の理論と展開	看護理論と看護過程：高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方
12	事例による看護過程の展開 1)	【演習】高齢者の看護過程の展開：情報収集とアセスメント
13	事例による看護過程の展開 2)	【演習】高齢者の看護過程の展開：関連図と看護問題の優先度
14	事例による看護過程の展開 3)	【演習】高齢者の看護過程の展開：分析・看護計画、
15	事例による看護過程の展開 4)	【演習】高齢者の看護過程の展開：看護問題の優先度、実施・評価

科目名	老年看護学実習 I		科目ナンバリング	K05B13038
担当者氏名	小野 晴子、西原 かおり			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 			

《授業の概要》

病院で療養生活を送る高齢者とその家族の状況をを総合的に理解し、加齢変化や疾患・機能障害を持つ高齢者の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、高齢者の生活機能を維持し、拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を看護過程をとおして習得する。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる。

《参考図書》

老年看護学概論・老年看護援助論で紹介したもの。授業資料及び自己学習ノート

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照。

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 I の評価表(100%)に準じて評価する。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

高齢者の強みを発見し、その人が自立できるような関わりを工夫しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
2	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
3	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
4	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
5	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
6	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
7	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
8	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
9	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
10	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
11	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
12	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
13	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
14	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照
15	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項(老年看護学実習 I)を参照

科目名	老年看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	K05B13039
担当者氏名	小野 晴子、西原 かおり			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 			

《授業の概要》

介護老人保健施設または介護老人福祉施設で生活する高齢者とその家族の状況を知り、高齢者がよりよい生活を送れるよう支援するために必要な知識・技術・態度を看護過程をとおして習得する。また、地域における高齢者とその家族への支援と地域連携における看護師の役割について学習する。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる。

《参考図書》

老年看護学概論・老年看護援助論で紹介したもの。
授業資料及び自己学習ノート

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。

《成績評価の方法》

老年看護学実習Ⅱの評価表(100%)に準じて評価する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

高齢者にとってプラスの刺激となるような関わりを工夫しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
2	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
3	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
4	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
5	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
6	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
7	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
8	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
9	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
10	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
11	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
12	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
13	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
14	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。
15	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照。

科目名	母性看護援助論		科目ナンバリング	K06C13041
担当者氏名	天本 都、中村 朋子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

周産期における母子の健康と看護について学び、対象に適した看護過程を展開する能力を養う。
 周産期における母子に必要な看護援助技術を安全に実施するための能力を養う。

《テキスト》

系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論・医学書院 母性看護学各論・医学書院 ナンキンググラフィカ 母性看護学実践の基本・メイヂ出版 母性看護技術・メイヂ出版

《参考図書》

病気が見える 産科・メデイックメデイカ
 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程・医歯薬出版K.K
 ウエルネスからみた母性看護過程・医学書院

《授業の到達目標》

妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントができる。
 妊婦・産婦・褥婦・新生児及び家族を対象とした看護過程を展開できる。
 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護技術を科学的根拠に基づき、安全に実施できる。
 対象の個別性を踏まえて、保健指導の作成と指導を実施できる。

《授業時間外学習》

自ら進んで理解を深める努力を行なう。
 国家試験問題に随時取り組む。
 沐浴試験には教材を活用し練習した上で臨む。
 保健指導に関する発表の準備はグループワークにて行なう。

《成績評価の方法》

定期試験 80%
 保健指導 10% 沐浴試験10%
 小テスト・レポート点を考慮する。（提出遅れは認めない）
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

授業中は携帯電話の操作禁止
 演習中は清潔な白衣を着用し、時間厳守で行なう

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊婦の看護	妊娠期の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、必要な看護について理解できる
2	産婦の看護	分娩の3要素・経過を理解し、産婦と胎児のアセスメントを行なうことができ、分娩Ⅰ期からⅣ期までの必要な看護援助について理解できる。
3	妊産婦のヘルスアセスメント	事例を通して妊婦・胎児に関する必要な情報収集を行う。分娩期に於いては、進行状態に応じたアセスメントを行い、産婦・家族を含めた必要な看護援助が理解できる。
4	褥婦の看護	産褥期の進行性変化・退行生変化、心理・社会的変化を理解し、必要な看護について考えることができる。更に母親に合わせた保健指導の考案ができる。
5	褥婦のヘルスアセスメント	事例を通して褥婦の観察項目を理解し、アセスメントを行い、褥婦と家族を含めた看護援助を行うことができる。
6	新生児の看護	新生児の特徴、生理的变化、起こり易い異常について理解できる。また母子相互作用を含めて新生児・家族に必要な看護を理解できる。
7	新生児のヘルスアセスメント	事例を通して新生児の観察項目を理解でき、対象に応じたアセスメントを行い、看護援助を考えることができる。
8	看護過程の展開	事例を通して情報収集・アセスメント・関連図・課題・計画立案・実施・評価ができ、更に妊娠期から産褥期までの要約を行なうことができる。
9	妊婦の看護技術	妊婦健康診査（腹囲測定・子宮底測定・レオポルド触診法・胎児心音聴取）の技術を理解し、内診時の援助ができる。妊婦服装着により妊婦の身体的負担を理解できる。
10	産褥婦の看護技術	分娩期にある産婦の観察と、痛みの緩和を中心とした看護技術が理解できる。産褥期の子宮・乳房の観察、及び新生児の抱き方、授乳方法について理解できる。
11	新生児の看護技術	新生児の観察技術を理解し実施できる。ドライテクニック、沐浴を安全に実施できる。黄疸計・光線療法・保育器の基礎的な取り扱い方を学ぶ。
12	妊娠期・分娩期のハイリスクについて	妊娠期・分娩期のハイリスク、その要因、予防・治療・看護が理解できる。
13	産褥期・新生児期のハイリスクについて	産褥期・新生児期のハイリスク、その要因、予防・治療・看護が理解できる。
14	沐浴実技試験	新生児の観察・アセスメントを行い、安全に沐浴を実施することができる。沐浴実施後自己評価し課題が理解できる。
15	保健指導発表	グループワークで対象者の個別性を踏まえた、指導計画の立案・教材の作成ができる。ロールプレイングで発表を行なう。

科目名	母性看護学実習		科目ナンバリング	K06B13042
担当者氏名	富安 俊子、天本 都、中村 朋子			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の特徴を理解し、実習を通して対象者の健康回復への看護、及び健康な生活に向けて、家族を含めて援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 妊娠・分娩・産褥各期の経過と、新生児の生理的特徴や変化を理解できる。2. 児と母親を取り巻く育児環境の重要性を理解できる。3. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の個別性に応じた看護計画・保健指導を考案できる。4. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の状態に応じた看護を実践できる。5. 周産期の看護を通して倫理上の諸問題について考えることができる。6. 周産期医療チームとしての役割と、連携の重要性が理解できる。

《成績評価の方法》

母性看護学実習評価表に基づいて、教員と学生の面談を行い評価する。（100点満点）
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

母性看護学概論、母性看護学援助論で用いたテキスト

《参考図書》

ウェルネス看護診断の基づく母性看護過程・医歯薬出版K. K
 ウェルネスからみた母性看護過程・医学書院
 病気が見える 産科・メディックメデिका
 妊産褥婦のケア・医歯薬出版K. K

《授業時間外学習》

母性看護学援助論の復習により、実習に必要な基礎的知識と技術を確実に身につける。実習の事前課題を徹底して学習する。

《備考》

看護臨地実習要綱に記載の実習誓約事項を遵守すること。
 母子に関する実習となるため自己の健康管理に努めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	—	母性看護学実習要綱、その他必要な資料で詳細を説明します。
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	小児看護援助論		科目ナンバリング	K06C13044
担当者氏名	森田 恵子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力			

《授業の概要》

小児の発達段階とその家族の理解をもとに、様々な健康段階にある小児と家族の看護を学ぶ。病気や障害が与える小児と家族への影響を知り、健康問題への看護を理解する。小児の環境や健康障害の経過と治療状況に応じた看護を学ぶ。また、小児の事例をもとに看護過程を展開し立案した援助に対する演習を行い、小児看護技術と関連させながら学ぶ。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

子どものフィジカルアセスメント 金原出版
 子どもの病気の地図帳 講談社
 入院のための遊びとおもちゃ 中央法規
 小児看護過程 病態関連図 医学書院

《授業の到達目標》

1. 病気や障害の小児と家族に与える影響を述べるができる。2. 小児の健康問題に対する看護について理解することができる。3. 健康問題を持つ小児の環境に応じた看護の特徴を述べるができる。4. 健康障害の経過と治療状況に応じた看護を述べるができる。5. 小児のアセスメントに必要な技術を習得することができる。6. 症状を示す小児への看護を述べるができる。

《授業時間外学習》

講義内容や演習について、復習を行うこと。臨地実習への活用を常に意識すること。

《成績評価の方法》

定期試験70%、課題レポート、演習レポート30%で評価する。

《備考》

演習や事例検討を行うため、自主的な学習への取り組みが必要になる。自覚を持ち授業に臨むこと。

*わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	病気・障害が小児と家族に与える影響と看護	子どもと家族の病気の理解と病気・治療に伴うストレスと対処について理解しストレスへの援助や遊びの効果学ぶ。検査、処置に対するプリパレーションを学ぶ。
2	子どもとの関わりを進める技術	発達段階に応じた子どもとのコミュニケーションを演習し、コミュニケーション技術を習得する。また、子どもの年齢に応じた遊びを考え演習する。
3	小児のアセスメント技術 子どもの観察	小児に対するアセスメントについて、モデルを活用しながら演習し、技術を習得する。バイタルサインの測定・呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメントの演習を行う。
4	症状別にみる小児と家族の看護1	小児における症状の特徴と看護を理解する。また、症状からのアセスメントを行い、看護の方向性を導き出す。
5	症状別にみる小児と家族の看護2	小児における症状の特徴と看護を理解する。また、症状からのアセスメントを行い、看護の方向性を導き出す。
6	経過別にみる小児と家族の看護1	急性期の特徴と生命維持、生体機能の安定を優先する看護を学ぶ。さらに手術療法を受ける子どもへの安楽、安全、苦痛の緩和に向けた看護と家族への看護を学ぶ。
7	経過別にみる小児と家族の看護2	慢性期の特徴と慢性状態が及ぼす影響を学ぶ。また、年齢にあったセルフケア能力の育成や自立に向けた子どもと家族への看護を学ぶ。
8	経過別にみる小児と家族の看護3	痛みのある小児とその家族への看護について、事例を活用し援助の実際を理解する。
9	検査処置を受ける小児への援助技術	子どもにとっての検査処置体験について知り、輸液療法を受ける子どもへの援助技術を演習し、技術を習得する。輸液管理、シーネ交換、手の清拭の演習を行う。
10	小児の看護過程演習1	肺炎を発症した小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。看護過程の概要を学び、事例をもとに看護過程の演習を行う。
11	小児の看護過程演習2	肺炎を発症した小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。事例から情報収集、アセスメントを行い、関連図を作成する。
12	小児の看護過程演習3	肺炎を発症した小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。事例の看護問題を明確にし、計画立案を行う。
13	小児の看護過程演習4	ネフローゼ症候群を発症した小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。計画した援助を実際に演習する。
14	小児の看護過程演習5	ネフローゼ症候群を発症した小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。実施した計画を評価し計画の修正を行う。
15	小児看護のこれからの方向性	小児看護の現状（混合病棟・在宅療養・災害・障害を持つ小児）を踏まえ、これからの看護の方向性を考える。

科目名	小児看護学実習		科目ナンバリング	K06C13045
担当者氏名	森田 恵子			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

小児看護学実習は、小児各期の特徴を理解し、健康のレベルや成長・発達段階に応じた看護を実践することを目的とする。小児看護学概論と小児看護援助論で学んだ知識を統合して活用し、小児と家族がもっている力を最大限発揮できるよう看護するための基礎的能力を習得するための実習である。小児病棟・施設と幼稚園で実習を行う。

《授業の到達目標》

小児病棟・施設の実習では、小児各期の成長・発達の特徴や生活と、健康障害を関連してとらえ、個々の特性に応じた援助の必要性を判断する。小児の健康障害及び障害を理解し、適切な援助を行うことなどを目標とする。幼稚園の実習では、子ども各期の成長・発達を理解する。子どもとの望ましい関わり方を学び、実践することなどを目標とする。詳細は実習要項で確認する。

《成績評価の方法》

小児看護学実習要項に記載している評価表をもとに、学生と教員の面談によって評価する。
*わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

小児看護過程+病態関連図
 小児看護技術 医学書院
 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ
 小児看護過程&関連図 日総研
 小児看護実習ガイド

《授業時間外学習》

既習学習の復習、実習に関する事前学習、事前の技術の確認や演習が必須となる。

《備考》

子どものもっているパワーを感じ、出会えることを楽しんでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	—	小児看護学実習要項で説明します。
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	精神看護援助論		科目ナンバリング	K07C13047
担当者氏名	加藤 知可子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 <input type="radio"/> 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 <input type="radio"/> 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 <input checked="" type="radio"/> 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 <input type="radio"/> 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力			

《授業の概要》

全体の授業計画に示す通りである。

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）「オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）「プロセスレコードを通して学ぶ 臨地実習ケーススタディ」吉田哲（看護の科学社）

《授業の到達目標》

○患者一看護師関係の形成に必要なコミュニケーションを説明できる。○自己を洞察する方法を説明できる。○精神の健康に障がいや問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的な援助を説明できる。○事例を基に、ニードに沿った看護計画の展開方法を説明できる。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。(2) 復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は自分で資料や図書を用いて調べたり、質問する。精神看護援助論に関する図書・資料を読み、学問的な視野を広げる。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上の出席者を単位認定対象とする。評価の割合は、定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）とし、100点満点で60点以上を合格とする。課題及び授業の到達目標に対するフィードバックは、分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより、授業計画や成績評価法には変更を加えることがある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、減点の上、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	患者一看護師関係	患者一看護師関係の発展過程を説明できる。
2	自己への振り返りプロセスレコード	自己への振り返りの方法について（プロセスレコード等）説明できる。
3	コミュニケーション技術	コミュニケーションの技術について、説明できる。
4	精神疾患の理解	精神疾患について説明できる。
5	精神障がいの回復過程	精神障がいの回復過程を説明できる。
6	日常生活援助	精神を病む人への日常生活援助を具体的に説明できる。
7	行動制限と看護	行動制限について、法と人権の擁護、看護の視点から何が必要なのかを説明できる。保護室使用時の看護についての基本や注意事項、法との関連を説明できる。
8	検査を受ける人及び薬物療法を受ける人への看護	検査を受ける人及び薬物療法を受ける人への看護について何が必要かを具体的に説明できる。
9	SSTと心理教育	SSTと心理教育について基本的な概念と役割、応用について説明できる。
10	看護過程を展開するための理論	看護過程を展開するための理論の基本的な概念を説明できる。
11	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
12	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
13	家族支援	精神障がい者の家族支援について、家族のQOLを保持・増進できる具体的な援助を説明できる。
14	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源やその活用について説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する援助方法を具体的に説明できる。

科目名	精神看護学実習		科目ナンバリング	K07C13048
担当者氏名	加藤 知可子			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力			

《授業の概要》

詳細は精神看護学実習要項を参照する。

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）
 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
 「オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）

《授業の到達目標》

○精神障がい者とその家族を理解し、日常生活の自立に向けて、精神障がい者の個別性に応じた看護を実践できる基礎的な能力を身につける。○心を病む人々を支える看護活動および関連する社会資源の活用、チーム連携について学ぶ。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：精神看護学実習に関する図書・資料を読み、事前学習しておく。(2) 復習の方法：提出が必要な課題・記録物を作成し、指導を受け、修正・追加をしていく。

《成績評価の方法》

精神看護学実習の評価表に基づいて評価を行なう。
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

(1) 臨地実習要綱や精神看護学実習要項をよく読んでおく。(2) 事前学習・演習をしっかり行って実習に臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
2	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
3	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
4	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
5	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
6	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
7	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
8	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
9	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
10	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
11	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
12	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
13	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
14	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
15	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照

科目名	在宅看護援助論		科目ナンバリング	K07B13050
担当者氏名	新田 幸子、高見 千恵、東 久子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 			

《授業の概要》

在宅看護概論の学習内容を想起し、療養者とその家族に必要な知識・技術・マナーについて学習します。事例を通して、様々な医療ニーズに応じた生活上の工夫や支援の方法、在宅で医療管理を必要とする人への看護を学びます。

《テキスト》

系統看護学講座 統合分野「在宅看護論」2014（医学書院）

《参考図書》

ナーシング・グラフィカ在宅看護論
「地域療養を支えるケア」2015（メディカ出版）

《授業の到達目標》

訪問看護師と病棟看護師の密な連携活動（退院調整を含む）を知り、一貫した継続ケアの必要性が説明できる。在宅という「場」を理解し、看護技術の応用による援助の方法を工夫することができる。独居療養者やターミナル期の療養者、老々介護の問題など事例を通して学ぶことができる。

《授業時間外学習》

難病をもつ生活者や、介護をしている生活者などの手記を読んで、理解を深めること。
身近な高齢者をイメージし、生活の場で介護する上で困難な事柄を把握すること。

《成績評価の方法》

定期試験（60%）
課題等の提出（20%）※提出遅れについては減点する
受講態度（20%）
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

在宅療養やケアの実際をイメージできるよう、ストーマ（手づくり）やDVDを使用し、授業内容を工夫しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅看護で求められる能力	在宅看護概論で学んだ学習内容を想起する。 在宅看護を展開するにあたって、求められる能力を学ぶ。
2	訪問看護の基本	在宅看護の活動を支えるコミュニケーションや訪問時のマナーを学ぶ。
3	在宅看護技術①	食生活に関する在宅看護技術 排泄に関する在宅看護技術
4	在宅看護技術②	移動・移乗に関する在宅看護技術として、在宅における日常生活動作（ADL）のアセスメントと移動援助の技術を学ぶ。安全確保、補助用具などを理解する。
5	在宅看護技術③	呼吸機能に関する在宅看護技術として、呼吸のアセスメント、排たん法、吸引、在宅で使用される呼吸に関する医療機器の種類を理解する。
6	認知症の療養者に対する看護	認知症をもつ療養者とその家族への支援の実際を学ぶ。
7	在宅における終末期看護	終末期にある療養者に対し、訪問看護師と病棟看護師との連携や疼痛管理について学ぶ。家族へのみとり教育や遺族訪問について理解する。
8	独居の療養者に対する看護	独居で高齢という状況下にあっても365日24時間、安心して住み慣れたわが家で過ごしたい療養者の希望をかなえるための社会資源の活用について理解する。
9	さまざまな在宅看護の対象者	小児の療養者とその家族への支援の実際を学ぶ。 統合失調症の療養者に対する支援の実際を学ぶ。
10	在宅医療技術①	療養者の経管栄養・胃瘻・在宅中心静脈栄養法について事例をあげて、家族指導や在宅で起こりやすいトラブルなどを理解する。
11	在宅医療技術②	在宅における褥瘡ケアの実際と家族や介護者への支援と医療・福祉サービスとの連携の必要性を理解する。
12	在宅医療技術③	尿道留置カテーテルや人工肛門・人工膀胱を使用する療養者の観察、日常生活の工夫について理解する。
13	在宅医療技術④	在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法の実際と退院後の社会資源を理解する。
14	在宅医療技術⑤	在宅人工呼吸法を通して、日常生活の工夫や24時間ケアする家族の介護負担の軽減などについて理解する。
15	総括	これまで学習してきた内容の総括を行い、理解度を深める。

科目名	健康教育論		科目ナンバリング	K07B13053	
担当者氏名	石田 宜子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

健康教育の目的と、基礎となる理論を学習する。そして具体的な教育技術と展開方法を学び、実践できる基礎的能力を養う。

《テキスト》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

- ・健康教育の目的を理解する。
- ・健康教育の基礎となる理論を理解する。
- ・健康教育の具体的な教育技術と展開方法を理解する。
- ・対象に分かりやすく伝える構成、内容、媒体で健康教育を模擬的に実践する。

《参考図書》

「最新保健学講座 健康教育論」宮坂忠夫他、メヂカルフレンド社
 「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎」松本千明、医歯薬出版
 「医療・保健フタツフのための健康行動理論実践編」松本千明、医歯薬出版

《授業時間外学習》

課題は参考図書をはじめ、資料を用いて学習する。

《成績評価の方法》

成績評価は、筆記試験：60%、レポート：20%、グループワーク参加度：20%で行う。

授業終了ごとに理解しづらい箇所や質問を全員から用紙で受け取り、次回授業でコメントする。レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康教育とは	健康教育の意義、目的、方法について理解する。
2	健康教育の基礎となる理論	健康教育の基礎となる理論を理解する。
3	健康教育の方法①	健康教育の基本的な方法について理解する。
4	健康教育の方法②	健康教育の媒体とその特徴を理解する。
5	健康教育の実際①	健康教育の企画を行う。
6	健康教育の実際②	健康教育の実践に向けた準備を行う。
7	健康教育の実際③	健康教育を相互に実施し、その評価を行う。
8	まとめ	全体の振り返りを行う。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	国際看護学		科目ナンバリング	K07B13055	
担当者氏名	大植 崇				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ◎ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力 			

《授業の概要》

世界の人々の健康と保健医療の現状について理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす人口的、社会経済的、文化的な要因について考える。また、国際保健・看護の主要な概念や異文化看護の理論と国際保健協力の組織、具体的な事例を学び、世界の健康問題と国際保健協力について学習する。

《テキスト》

田村やよひ編 新体系看護学全書 39 看護の統合と実践 ③ 国際看護学 メヂカルフレンド社

《参考図書》

近藤麻理「知って考えて実践する国際看護」医学書院 2011

《授業の到達目標》

海外の医療・看護に触れ、海外に対する自己の視野を広げ海外協力について考えることができる。
異文化を知ると共に、医療・看護活動の実際を知ることができる。

《授業時間外学習》

最近起きている国際的なニュースを新聞やTVの報道に興味・関心をもって聴くこと。また、国際的に看護活動を実践している看護職者の現状をインターネット等で調べておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、提出物（20%）、講義に対する積極的な態度（20%）で評価をする。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 国際看護学とは	オリエンテーション・異文化看護理論：国際看護学とはなにか（国際看護学の定義、多文化看護の概念、レイニンガーの看護理論）
2	国際機関の役割と国際看護活動	国際機関の役割と国際看護活動：世界保健機関（WHO）・国際看護師協会（ICN）、国際助産師連盟（ICM）国際協力機構（JICA）、非政府団体（NGO）など
3	異文化理解	海外の文化を紹介し、異文化理解の重要性について理解する。
4	グローバル・ヘルスの課題	SDGs：MDGからSDGへ概説 健康の経済的、社会的、環境的背景 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 妊産婦・小児の健康と栄養失調 感染症 メンタルヘルスなど
5	在日外国人への看護	在日外国人の人口動態・在日外国人の健康支援、訪日外国人への支援
6	国際看護に必要な視点	国際看護に必要な視点：グループワークを通し、他国の背景にある国民性や価値観や風習、基本的な生活習慣など数多くの相違を意見交換し、その内容を発表する。
7	国際看護に必要な視点	国際看護に必要な視点：グループワークを通し、他国の背景にある国民性や価値観や風習、基本的な生活習慣など数多くの相違を意見交換し、その内容を発表する。
8	国際看護に必要な視点	発表とまとめ
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 統合科目 VIII群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究Ⅰ（基礎編）		科目ナンバリング	K08B13058
担当者氏名	全教員			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力			

《授業の概要》

看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発につとめ、看護学の発展に寄与する責務がある。常に探求的視点を持って看護を思考することが重要である。過去の看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問・未解明な部分に対して、研究課題を設定し、看護研究Ⅱで担当教員から指導・助言を受けながら研究を行うための基本的知識と方法論を修得する。

《授業の到達目標》

- ①看護学の研究とは何か、その目的や理論との関係、看護実践への応用について理解できる。
- ②研究目的の明確化とそのために不可欠な文献検索・文献検討について理解できる。
- ③看護研究における倫理的配慮(研究対象者の権利擁護)について理解できる。
- ④研究計画書するための基礎知識を習得することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、提出物（20%）、講義に対する積極的な態度（20%）で評価をする。
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

黒田裕子：「黒田裕子の 看護研究 step by step」 第4版 医学書院

《参考図書》

- ①南 裕子：「看護における研究」日本看護協会出版会
- ②対馬 栄輝：「SPSSで学ぶ医療系データ解析—分析内容の理解と手順解説、バランスのとれた医療統計入門」東京図書
- ③Polit D.F&Hungler B.P.：Principles and Methods 近藤潤子監訳：「看護研究第2版—原理と方法」医学書院

《授業時間外学習》

基礎ゼミで習得した、「文献検索」の講義を復習し、図書館等を利用し、学術論文等を読むこと。学生の主体性（問題意識、関心、やる気、持ち味）を尊重するので、研究のプロセスを丁寧に学習すること。

《備考》

研究計画書を提出後、研究Ⅱを引き続いて実施すること。看護研究Ⅱの履修届けは4年生Ⅰ期に提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究の概要と倫理	オリエンテーション 看護における研究の必要性と意義 研究における倫理的配慮について
2	研究疑問、文献検索・検討	研究テーマを明確にするプロセス 文献検索、文献検討の方法
3	看護研究の方法	量的研究アプローチ 質的研究アプローチ
4	研究計画書のまとめ方	研究計画書の作成方法
5	研究論文のまとめ方	論文の構成要素 論文のまとめ方
6	筆記試験	1回目から5回目までの範囲について筆記試験を行う
7	各教員の研究内容の紹介	各教員による研究内容のプレゼンテーション
8	各教員の研究内容の紹介	各教員による研究内容のプレゼンテーション 担当教員の決定
9	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成
10	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成
11	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成
12	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成
13	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成
14	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成
15	研究計画書作成	各担当教員のもとで、研究計画書を作成

科目名	リスクマネジメント論		科目ナンバリング	K08B13060	
担当者氏名	塩 霧都恵				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

過去の報道された事故事例分析や、グループワークにより医療事故のメカニズム・ヒューマンエラー（人の信頼性）・安全文化とは何かを考えてみる。そして、わが国の取組み経緯、病院の事故防止対策などを参考に医療安全とセーフティマネジメントの考え方を学習する。

《授業の到達目標》

- ①医療事故防止の基本理念を説明できる。
- ②安全で良質な医療を提供するための看護師の責任や必要な態度、知識、技術が説明できる。
- ③危険予知訓練の方法を理解し、その準備や訓練を実施することができる。
- ④医療事故の分析より背後要因の理解を深め、危険予知ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（80%） グループワーク参加度（20%）
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践『医療安全』 松下由美子・小林美雪編著, 2009. 1. 10メディカ出版

《参考図書》

- ・医療におけるヒューマンエラー、河野龍太郎、医学書院
- ・医療安全ワークブック、川村治子、医学書院
- ・看護事故予防、土屋八千代、山田静子、鈴木俊夫、中山書店
- ・人はなぜ誤るのか：ヒューマンエラー光と影、海保博之、福村出版

《授業時間外学習》

次回の授業までに指示した内容の予習
 提示された参考図書などにも目を通しておく。
 グループワークの目的が時間内に達成できなかった場合は、放課後グループメンバーで話し合い、次回までに目標を達成しておく。

《備考》

・授業内容は医療の質、患者の生命にかかわる重要な内容であることを理解し、ふさわしい受講態度で臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	医療事故とは	ヒューマンエラー「To error is human」をいくつかの事例から理解することができる。
2	医療事故は何故おこる	医療事故のメカニズムと人間工学的対策、過去の事故事例から、防止対策の重要性を知る。
3	医療事故を防止するには1	発生した事故の分析方法、P-mSHELモデル KYT RCA分析の方法を演習を通して学ぶことができる。
4	医療事故を防止するには2 医療事故の判例	事故の分析、看護業務と医療事故の関係、医療事故と看護の法的責任の重要性を理解することができる。
5	事故事例分析	事例事故防止の実際例についてその要因をグループワークで検討し対策を考えることができる。 演習（AB分かれて）
6	事故事例分析（横浜市立大学患者取り違え事件）	過去の医療事故の事例についてグループワークでRCA分析をし、対策を考える。 演習（AB分かれて）
7	事故事例分析のグループの発表	過去の医療事故の事例についてグループワークでRCA分析をした内容を発表し、学びを共有する。 演習（AB分かれて）
8	テスト60分 学習のまとめ	リスクマネジメントの学習を振り返り、事故防止のための知識、技術、態度について再確認する。
9	-	※90分×7.5回分の授業時間となります。
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	疫学	科目ナンバリング	K09D23062
担当者氏名	伊藤 純		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力		

《授業の概要》

疫学は、人間集団を対象とし、国民の疾病予防や健康増進に役立てることを目的とする学問です。保健行政などに活用できる基本知識と方法論を学習します。

《テキスト》

標準保健師講座別巻2「疫学・保健統計学」

《参考図書》

特になし。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する。
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる。
- 3 疫学的な思考や手法を理解する。
- 4 主要な生活習慣病やがんの疫学や危険因子を説明できる。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	集団の健康状態の把握①	疫学の概念、有病率、罹患率
2	集団の健康状態の把握②	相対危険度、寄与危険度、年齢調整
3	疫学的探求方法①	介入研究の方法
4	疫学的探求方法②	観察研究の方法
5	疾病の予防とスクリーニング	予防の3段階、妥当性の評価、ROC曲線
6	各疾患の疫学 感染症①	感染症法、HIV/AIDS、結核、食中毒の疫学
7	各疾患の疫学 感染症②	感染症疫学に関する問題演習
8	各疾患の疫学 生活習慣病①	糖尿病、メタボリック症候群、虚血性心疾患の疫学
9	各疾患の疫学 生活習慣病②	生活習慣病疫学に関する問題演習
10	各疾患の疫学 がん①	がんの部位別統計と危険因子
11	各疾患の疫学 がん②	がん疫学に関する問題演習
12	保健統計学①	代表値、散布度、検定方法
13	保健統計学②	保健統計学の問題演習
14	グループ実習	模擬疾病対策の立案
15	グループ実習	模擬疾病対策の発表

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	公衆衛生看護学活動展開論		科目ナンバリング	K09D23063
担当者氏名	石井 久仁子、福川 京子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 <input type="radio"/> 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 <input checked="" type="radio"/> 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 <input type="radio"/> 4-2 安全なケア環境を提供する能力 <input type="radio"/> 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

公衆衛生看護の活動技術の目的と方法について、講義と演習をとおして学修する。

《テキスト》

地域看護技術（標準保健師講座2）医学書院
 対象別公衆衛生看護活動（標準保健師講座3）医学書院

《参考図書》

保健師業務要覧 日本看護協会
 国民衛生の動向 厚生統計協会
 地域看護アセスメント 医歯薬出版株式会社

《授業の到達目標》

- ・公衆衛生看護活動の目的と方法を理解できる。
- ・公衆衛生看護活動技術の基本を実践できる。

《授業時間外学習》

レポート等課題への取組みの他、演習に臨むための練習に努めること。

《成績評価の方法》

- ・定期試験 70%
- ・レポート等課題 20%
- ・学修態度 10%

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

日程を変更することがあるので、常に掲示板を確認してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	母子保健活動1	母子保健活動の目的・方法について学ぶ
2	母子保健活動2・歯科保健活動	ハイリスク児・障害児保健活動の目的・方法について学ぶ 歯科保健活動の目的・方法を学ぶ
3	成人・高齢者保健活動	成人・高齢者保健活動の目的と方法を学ぶ
4	難病・精神・障害者保健活動	難病・精神・障害者保健活動の目的と方法を学ぶ
5	感染症対策、健康危機管理	感染症対策、健康危機管理の目的と方法を学ぶ
6	保健指導の基本 健康相談・健康診査	保健指導の基盤理論と保健師に求められる技術について学ぶ 健康相談・健康診査の目的・方法について学ぶ
7	家庭訪問・健康教育	家庭訪問・健康教育の目的・方法について学ぶ
8	家庭訪問演習1	オリエンテーション 計画立案
9	家庭訪問演習2	実践への準備に取り組む
10	家庭訪問演習3	実践、評価する
11	健康教育演習1	オリエンテーション 計画立案
12	健康教育演習2	実践への準備に取り組む
13	健康教育演習3	実践への準備に取り組む
14	健康教育演習4	実践、評価する
15	地域診断	地域診断の目的・方法を学ぶ

科目名	健康相談活動の理論と実践		科目ナンバリング	K09F23064
担当者氏名	大平 曜子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 			

《授業の概要》

学校教育における健康相談の概念や特質を理解し、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談活動の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談活動の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学ぶ。

《授業の到達目標》

- 健康相談活動の概念や役割について説明できる。
- 健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。
- 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
- 健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、課題の実践とレポート提出 30%、定期試験 60%とする。毎時の記録を基に次週に補足説明を加え、実践には、全体の講評と共に個別の講評を口頭で行う。質問等への対応のはオフィスアワーで受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際 (1)	進め方の実際、保健室の機能
9	健康相談活動の実際 (2)	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際 (3)	ロールプレイングによる健康相談活動の実際
11	健康相談活動の実際 (4)	グループ学習（演習）により課題を抽出
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたった上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	産業保健論		科目ナンバリング	K09D23065	
担当者氏名	石井 久仁子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 			

《授業の概要》

労働と健康のかかわりや働く人の健康問題を知り、産業保健の理念と目的、産業保健活動の中での看護の役割を学ぶ。

《テキスト》

産業看護学（日本看護教協会出版会）

《参考図書》

労働衛生のしおり（中央労働災害防止協会）
産業保健マニュアル改訂5版（南山堂）

《授業の到達目標》

1. 労働に関する現状と課題について考えることができる。
2. 事業場で行われている安全衛生管理体制について理解できる。
3. 働く人の健康課題と健康維持のために必要な支援について理解できる。
4. 将来、自分が労働者となった時に知っておくべき最低限の法規について理解できる。

《授業時間外学習》

事前に示された課題レポートを計画的に実施して期限までに提出すること。

《成績評価の方法》

1. 定期試験 70%
 2. レポート等課題 20%
 3. 学習態度 10%
- ※わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

日程を変更することがあるので、常に掲示板を確認してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業保健の理念と目的	産業保健の目的や歴史について学ぶ
2	産業保健を支える行政体系と法体系	産業保健を支える行政体系や法制度について学ぶ
3	労働と健康	社会における労働と健康のかかわりを学ぶ
4	産業保健活動における健康課題	産業保健における健康課題について学ぶ（職業性疾病、作業関連疾患、メタボリックシンドローム、過重労働対策、メンタルヘルス）
5	産業保健における公衆衛生活動の展開	産業保健における公衆衛生活動の実際について学ぶ（アセスメント、産業保健計画、産業保健の組織的展開）
6	産業看護活動の実際	産業保健活動の実際について学ぶ（健康診断、健康相談、健康づくり）
7	産業看護活動の実際	産業保健活動の実際について学ぶ（職場の安全管理、職場巡視、女性や高齢の労働者への健康支援）
8	産業保健の課題	産業保健に関する動向や今後の産業保健活動の課題について学ぶ
9	以下、空白	以下、空白
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	公衆衛生看護学実習 I		科目ナンバリング	K09D23066
担当者氏名	福川 京子、石井 久仁子			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の実際を学修する。

《テキスト》

地域看護アセスメント 医歯薬出版株式会社
公衆衛生看護学原論（公衆衛生看護学テキスト1）医歯薬出版株式会社

《参考図書》

コミュニティアズパートナーモデル第2版 医学書院
国民衛生の動向 厚生統計協会
この他、行政関連資料等、適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ・ 地域診断のプロセスを実践できる。
- ・ 地域診断の結果を根拠に基づいて説明できる。
- ・ 地域特性と健康課題の関連を考察し説明できる。
- ・ 健康課題の解決に必要な社会資源等方策を考察し、説明できる。
- ・ 保健師の地域診断の意義を考察し、説明できる。
- ・ 保健師の専門的自律に必要な態度を身につける。

《授業時間外学習》

実習の進行に伴う自己学習に努めること

《成績評価の方法》

要項の評価表に基づく評価（課題内容・面接評価を含む）
100%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

4年次の公衆衛生看護学実習Ⅱの選抜にかかる試験・面接を、本実習終了後に実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
2	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
3	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
4	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
5	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
6	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
7	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
8	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ要項参照
9	以下余白	以下余白
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	学校保健活動論		科目ナンバリング	K10E23069	
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 <input type="radio"/> 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 <input type="radio"/> 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 <input type="radio"/> 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

養護概説、学校保健概論の学びをもとに、学校保健活動の実際についてその理論と方法を学ぶ。学校保健における保健管理に関する分野では、学校安全を含めて保健管理に必要な知識や技術を習得するとともに、保健管理上の課題に触れながら児童生徒の心と体の健康について学ぶことを目的とする。

《テキスト》

『新版 養護教諭執務のてびき』植田誠治他監、東山書房 2014
 『児童生徒等の健康診断マニュアル』（財）日本学校保健会2015

《参考図書》

『新養護概説』第9版 采女智津江編、少年写真新聞社 2016
 『新訂版学校保健実務必携』戸田芳雄編、第一法規 2014
 『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』
 文部科学省 2009

《授業の到達目標》

- 学校保健の領域を構造的に説明できる。
- 学校保健活動の根拠となっている法律や制度が理解できる。
- 学校保健における養護教諭の専門性について説明ができる。
- 学校安全と危機管理について理解できる。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。また学校保健に近接する領域の復習を行う。

《成績評価の方法》

受講態度、課題レポート、演習などの提出物30%、小テスト20%、定期試験50%（テスト、資料の持ち込み不可）
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

学校保健に関連する課題について関心を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション 養護教諭の職務について理解する。
2	保健管理① 健康診断	児童生徒の健康診断① 健康診断の方法及び技術的基準、事前指導、評価等について理解する。（演習）
3	保健管理② 健康診断	児童生徒の健康診断② 健康診断の方法及び技術的基準、記録、事後措置等について理解する。（演習）
4	保健管理③ 児童生徒の保健管理	児童生徒の健康診断③ 疾病別保健管理と保健指導、事後措置について理解する。（演習）
5	保健管理④ 児童生徒の保健管理	児童生徒の健康診断④ 特別な配慮を要する児童生徒の管理について理解する。
6	保健管理④ 健康相談	健康相談の法的根拠、健康相談の実際について理解する。（演習）
7	保健管理⑤ 学校環境衛生	学校環境衛生の意義と目的、養護教諭と学校環境衛生活動について理解する。
8	学校における救急処置活動①	養護教諭と救急処置活動の実際について理解する。（演習）
9	学校における救急処置活動②	救急処置活動の進め方、救急処置活動の実際について理解する。（演習）
10	安全管理と危機管理①	学校における危機管理の意義と基本的な考え方、危機管理の進め方について理解する。
11	安全管理と危機管理②	児童生徒の学校管理下の災害、災害共済給付制度の概要について理解する。
12	養護教諭と保健教育①	養護教諭と保健教育とのかかわりの意義、教育課程と保健教育について理解する。
13	養護教諭と保健教育②	保健教育の実際について理解する。（演習）
14	保健室経営	保健室経営の実際について理解する。（演習）
15	学習のまとめ	学校保健活動についてのまとめ

《専門教育科目 関連科目 X群（養護教諭関連）》

科目名	学校保健演習		科目ナンバリング	K10E23070
担当者氏名	柴田 順子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 			

《授業の概要》

既習の看護学や養護に関する専門科目をもとに、学校保健活動を推進するための知識・技術・態度を習得する。保健管理の実際について演習を通して専門的知識・技術を習得する。また学級活動（保健指導）指導案・教材作成・模擬授業を通して、保健教育についての知識理解を深めることを目的とする。

《テキスト》

『改訂 養護実習ハンドブック』大谷・中桐編著 東山書房2015

《参考図書》

『児童生徒等の健康診断マニュアル』（財）日本学校保健会2015
 『新訂 養護教諭執務のてびき』植田誠治他監 東山書房 2014
 『小学校学習指導要領解説体育編』文部科学省 2008
 『中学校学習指導要領解説保健体育編』文部科学省 2008

《授業の到達目標》

- 養護教諭の専門性について説明ができる。
- 学級活動（保健指導）指導案作成の基礎力を育成する。
- 学校保健分野で必要な知識・技能・態度を養う。

《授業時間外学習》

演習が主体となるので学校保健関連の既習科目は復習しておく。

《成績評価の方法》

演習等受講態度20%、課題レポート・演習等の提出物60%
 プレゼンテーション20%
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

養護履修生として、目的意識を持ち、授業に主体的に参加する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方について解説する。
2	保健教育の実際	小学校における保健教育の実際について学び、知識・技術を習得する。
3	保健教育の実際	小学校における保健教育の実際について学び、知識・技術を習得する。
4	保健教育の実際①	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて学級活動（保健指導）指導案を作成する。
5	保健教育の実際②	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて学級活動（保健指導）指導案を作成する。
6	保健教育の実際③	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて学級活動（保健指導）指導案を作成する。
7	保健教育の実際④	模擬授業を実施するための板書計画、発問を考え、教材等を作成する。
8	学校保健に必要な専門性 養護教諭の職務①	養護実習報告会・4回生との交流会を通して、養護教諭の職務の実際について知識・技術を習得する。
9	学校保健に必要な専門性 養護教諭の職務②	養護実習報告会・4回生との交流会を通して、養護教諭の職務の実際について知識・技術を習得する。
10	保健教育の実際⑤	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、作成した指導案をもとに模擬授業をする。
11	保健教育の実際⑥	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、作成した指導案をもとに模擬授業をする。
12	保健教育の実際⑤	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、作成した指導案をもとに模擬授業をする。
13	保健教育の実際⑦	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、作成した指導案をもとに模擬授業をする。
14	保健室経営の実際	保健室来室者の対応事例について演習を通して学び、知識・技術を習得する。
15	まとめ	学校保健についてまとめる。